

平成 28 年度 学校 自己 評価 表 (年度当初)

倉吉北高等学校

学校運営方針

- 1 “チーム倉北！”～感動の学校づくり～を合い言葉に、チーム力で目標を達成する。
- 2 「倉吉北高魅力化プロジェクト」にチームで取り組み、倉吉北高の魅力化を図る。

今年度の重点目標

- 1 「倉吉北高魅力化プロジェクト」の実効ある取り組み
- 2 人間力の向上
- 3 募集定員の充足

評価基準 A:概ね達成 (80%程度以上) B:変化の兆し (60%程度) C:まだ不十分 (40%程度) D:方策の見直し (30%以下)

評価項目	具体項目	目的・意義	年度当初		評価	改善方策
			現状	具体的方策		
「倉吉北高魅力化プロジェクト」の実効ある取り組み	倉吉北高ビジョンの策定	本校の歴史・伝統を尊重するとともに、一貫性と継続性のある新たな学校の在り方を検討し、普遍性のある中長期的将来ビジョンを策定する。 ＜指標＞ 普遍性のある将来ビジョンが策定され、理念を表す概念図が完成している。	これまで、時代の変化や生徒の現状に応じて様々な改革が行われてきたが、継続性と一貫性にやや難があり、中途で断念した取組みもあった。その結果、内外に誇りうる倉吉北高らしさを打ち出せていない。	「倉吉北高魅力化プロジェクト」実行委員会(運営委員、コース・科主任)を定期開催し、将来ビジョンを検討する。 ・全教職員がプロジェクトチームの一員であるとの自覚を持ち、意識して積極的に意見を述べるようにする。また、各コース会議及び部会や学年会等で意見を吸い上げ、全教職員でビジョン作成に取り組む。		
	従来の取り組みの分析、整理、活性化	各コース及び各部・学年等における従来の取り組みを分析、整理し、情報が全教職員に共有され、実効ある取組みとなっている。 ＜指標＞ 各取組みの分析、整理が80%程度以上進んだ。情報が共有されている。	本校は、調理科、特進コース、健康スポーツコース、総合コースなど他校にない特色ある学科・コースを配置し、魅力化を図ってきた。また、従来から、本校教育充実のために様々な取組みを行い成果を上げている。しかし、各コース及び各部・学年が学校運営方針に沿って明確な目標を掲げ、全教職員が情報を共有してチームで取り組む体制には至っていない。	「倉吉北高魅力化プロジェクト」実行委員会(運営委員、コース・科主任)を定期開催し、従来の取り組みを分析、整理する。 ・各コース及び各部、学年の目標設定、組織、実施方法、成果等を分析し、より効果的、魅力的な取組みを検討する。 ・全教職員がプロジェクトチームの一員であるとの自覚を持ち、意識して積極的に意見を述べるようにする。		
	他校にない特色ある取組みの企画	他校にない特色ある取組み、或いは従来の取組みの革新などが企画され、実施に向けた準備が整っている。 ＜指標＞ 企画書が完成し、実施に向けた打合せが行われている。	現状において、既に他校にない特色ある学科・コースを配置し、魅力化を図っている。しかし、各コースとも定員を充足しておらず、特色を活かしているとは言えない。また、学科・コースの特色以外の倉吉北高ならではの特色ある取組みがPRできていない。	「倉吉北高魅力化プロジェクト」実行委員会(運営委員、コース・科主任)を定期開催し、新たな特色づくりを検討する。 ・各コースの取組みを再検討するとともに、新たな特色の創出について意見交換する。 ・全教職員がプロジェクトチームの一員であるとの自覚を持ち、意識して積極的に意見を述べるようにする。		
学力の向上	学力の向上	・学力の向上とは生きる力・人間力の向上ととらえて、すべての生徒が自分のキャリア形成にむけて、個性に応じた学力を身につける努力をしている。 ・すべての生徒が授業に意欲をもって参加し、基礎・基本の学力を身につけるとともに進路に応じた発展的な学習に取り組んでいる。 ・各教科の授業・総合的な学習・特別活動・読書活動など教育活動全体を通じて、生徒一人ひとりの表現力・コミュニケーション能力の向上をはかる取組みが推進されている。 ・すべての教職員が学力向上にむけて共通研究テーマを設定し、各教科で授業研究(研究授業・授業評価による点検・校外での研修など)を通じた教育改善を行っている。 ＜指標＞ ・基礎力テストや各種模試の過年度比較において、生徒の学力・成績が向上している。 ・各学期末の成績や進級・卒業認定において、生徒の成績状況が改善している。 ・研究授業の参観者が増え、日常的に教科を横断した教育実践の交換が行われている。	・キャリア形成に対する意欲や意欲が未発達な生徒が多く、日々の学習の取り組みが各自の将来を見すえた主体的・継続的なものになっていない。 ・授業を受ける態度は真面目な生徒が多い。とはいえ、家庭学習の時間が少なく主体的な取り組みとなっていない生徒が多い。 ・「明学習(マナロ・明学習)」の実践による基礎学力の向上が見られるが、一方で基礎学力の積み上げができていない生徒の学び直しについての取り組みを確立できていない。 ・教育活動全体の点検、表現力・コミュニケーション能力を高める教育実践の工夫が、学校全体として不十分である。 ・研究授業がなかなか実施できず、教育改善のための教職員の意欲の共有が不十分である。	・総合的な学習の時間についてカリキュラムの再構築を行うとともに授業科目との連携をはかり、また、生徒が個々の将来を見すえた学習に取り組む意識付けのため、学習ファイルを持たせて学習の積み上げを行う。 ・選別の検定やチャイム唐・挨拶の徹底など生徒が授業に集中するための取り組みを徹底する。生徒の実践に応じた授業展開を工夫するとともに、日常的に家庭学習課題を課し、小テストによる復習を実施するなど、生徒が主体的に学習する仕組みを工夫する。 ・「明学習」の状況を定期的に点検(夏・冬休み明けテスト、学年末の認定テストを実施)しながら学習意欲の定着に向けた生徒の意識付けをはかり、基礎学力不足者に対する手当て(学力補充の時間確保など)を行う。 ・生徒が表現力やコミュニケーション能力を高めることができるような授業実践の研究を各教科で進めるとともに、選考・生徒会活動や部活動を通じて日常的に生徒の表現力を高める。 ・授業の充実に向けて、共通研究テーマに基づいた職員全体研修を行うとともに、教員全員が年1回授業公開(校内)を行い、また各教科においても授業研究会を年1回以上実施する。		
	進路目標の実現	どの生徒も、基本的な生活習慣確立されていることが進路実現につながることを理解している。適切な進路目標が設定され、本人、教師、保護者が一体となって、すべての生徒の志望が実現している。(指標) 難関大学1名以上、国公立大学10名以上、就職率100%。面接でしっかり自分を表現できる。	・前向きに頑張る生徒が多い。 ・安易で無難な進路選択をする生徒もみられる。 ・本人、教師、保護者が一体となって、生徒の志望が実現しているが、離職する生徒もいる。 ・国公立大3名合格。	・2年次にインターンシップの実施。 ・3年生の2年生に対する「合格者の声」講演会を実施。 ・1、2年次に学問系統別ガイダンス、職業別ガイダンスを実施。 ・4月、1、2年進路講演会、3年プレゼンテーション講演会を実施。 ・進路希望に特化した講演会、ガイダンスを実施。(看護、公務員) ・小論文講座、プレゼンテーション講座の実施。 ・自己表現訓練講座の実施(年5回) ・放課後学習、土曜日演習の充実。 ・学校での進路行事をHPに掲載する。 ・担任・学年団、生徒一人一人の情報共有と、それに基づく個人面談もしくは3者面談を随時実施。 ・面接指導の徹底。(担任・学年団・各部長・管理職による3段階面談の実施) ・育友会と連携し保護者向けのガイダンス、講演会を実施。		
人間力の向上	在り方生き方教育の充実	分離礼が徹底され、校外で明るい挨拶ができる。また、掃除が徹底しており、校内及び学校周辺が美しく整備されている。自らの「在り方生き方」を考える機会が多い。 ＜指標＞ どの生徒も分離礼が徹底している。どの生徒も積極的に掃除に取り組んでいる。「在り方生き方」を考える機会が設定されている。	・美しい分離礼ができる生徒も多いが、あいさつのできない生徒や声の小さい生徒もいる。多くの生徒が真面目に掃除に取り組む、校内はきれいだが、一部に取り組みが不十分な生徒もいる。 ・人権教育、キャリア教育など「在り方生き方」について考える機会が設けられているが、自分自身の現在の生活や将来の生き方に活かされていない生徒もいる。	・教員が生徒の目本となるようにする。(挨拶・姿勢・行動など) ・教員は、目本から挨拶、名前を呼んでの声掛けなど、生徒のことを見ているということ、生徒に気付かせる。 ・学期末終了前に、個人の活動(学習への取り組み・部活動の取り組み)や、クラス内での活動(クラス内目標など)を振り返る時間を作り、新たに目標設定するなどの機会を設ける。 ・ボランティア活動や、部活動での成果を、掲示板などを活用し、全校生徒に見えるようにする。 ・挨拶運動を活性化させる。挨拶の意義の説明をする。 ・風紀委員会と協力しての服装頭髪検査を実施する。 ・服装頭髪検査による一覧表を作成する。 ・清掃状況チェック、および情報共有をする。		
	部活動の進展	どの生徒も部活動に積極的に参加し、人間力を向上させている。 ＜指標＞ 部活動加入率90% 全国大会入賞個人・団体合わせて5つ以上。 前年度の成績を上回る部活動が半数以上となる。	・部活動に参加している生徒の数は増加傾向にある。 ・全体的には65%程度の加入率となっている。 ・前年度は全国大会にてゴルフ部(優勝)。陸上部が全国大会にて入賞しており、中国大会、県大会にて優勝及び入賞を果たしている。	・自分自身の人間力を向上させる意味でも部活動を行っていない生徒に部活動を面談等を通して呼びかける。 ・顧問を開き、練習場所を効率良く確保するよう調整をする。 ・部結成を行い部活動に入部する機会を増やす。 ・トップアスリート事業を利用し、有名コーチ、有名選手を招いて向上を図る。 ・強豪校、先進校へ積極的に赴き能力向上を図る。		
	生徒会活動の活性化	どの生徒も生徒会活動に積極的に参加し、人間力を向上させている。 ＜指標＞ 生徒会執行部や各種委員会などリーダーの活動が活発である。「感動の北高祭」感動の運動会」をめざす。	・委員会活動は学期ごとに目標を決め、学期始めに発表する。 ・生徒会執行部自体は、熱意を持って活動している生徒が増えている。 ・北高祭では実行委員会を結成し委員長、執行部を中心に開催している。 ・運動会は体育委員会、執行部中心の進行・運営で行っている。	・各委員会の活動を活発にし、会合を定期的に行い目標達成を積極的に呼びかける。 ・執行部による「生徒会新聞」を作成し、生徒会活動への理解と参加を全校生徒に促していく。 ・北高祭、運動会への取り組みを早期に行い、リーダーがリーダーシップを発揮し、各クラスの実行委員を活動させ、企画運営の充実、感動を呼ぶ行事とする。		
学校行事の充実	・すべての生徒が学校行事に積極的に参加して主体的・協働性を育み、生きる力・人間力を向上させている。 ・学校行事などすべての特別活動に明確なねらいが設定されており、生徒の企画力や運営力、リーダーシップの育成がはかられている。 ・全ての学校行事が充実した、生徒にとって感動を高めるものであり、地域・中学生に対して本校の魅力の発信に大きく寄与している。 ＜指標＞ アンケート「学校行事が充実している」の評価A及びBが85%以上	・多様な学校行事が用意され、多くの生徒が行事に楽しんで参加している。(主な行事=1年宿泊研修、2・3年バス遠足、北高祭、運動会、遠歩大会、1年スキー研修、2年修学旅行) ・生徒が学校行事のなかで主体的に活躍する場面はあるが、まだまだ多いとはいえない。(北高祭でも多くの生徒は取組みが受動的で、個々の生徒の人間力を伸ばせていない。) ・個々の学校行事は年々工夫され楽しいものとなってきているが、生徒が感動し、地域・中学校からこの行事は倉吉北の魅力だと言われる行事にはなっていない。 ・全ての学校行事の目的が、他の教育活動(授業・特別活動など)とともに、本校の教育全体や「松柏精神」のなかに、明確には位置づけられてはいない。	・学校行事の位置付けや目的・育てたい生徒の力、そして他の教育活動との連携などについて、全教職員で検討協議して明確にする。 ・学校行事に関する生徒・保護者の意見や思いの集約や教職員の協働により、生徒が主体的に取り組むことのできるプログラム、生徒が人間力を伸ばすかつ単発的ではないプログラムに改善する。 ・上記2点を推進することで、北高ならではの学校行事を実施する。 ・生徒会執行部生徒や部活動のリーダーの生徒が、各学校行事についても、主体的・自主的な企画・運営の力を発揮できるように、支援・指導を行う。 ・授業時数の確保・地域との連携(への発信)のため、学校行事実施日の検討を行う。(土曜日の活用を含む)			
地域との連携	どの生徒もボランティア活動に積極的に参加し、人間力を高め、社会に貢献する。地域と連携して取り組んでいる。 ＜指標＞ どの生徒も年に1回以上ボランティアに参加している。	・ボランティア活動を経験することにより、人間力を高め、社会に貢献しようという意識が向上してきている。 ・参加人数は述べ人数としては多数参加している。	・生徒全員が1年に1回はボランティア活動を行うよう繰り返し指導する。 ・ボランティア活動に取り組んだ生徒の感想を発表する機会を設ける。 ・部活動、学年全体でのボランティア活動を積極的に呼びかける。			

評価基準 A:概ね達成 (80%程度以上) B:変化の兆し (40%程度) C:まだ不十分 (40%程度) D:方策の見直し (30%以下)

評価項目	具体項目	年 度 当 初			評 価 結 果		
		目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
募集定員の充足	中学校との連携	中学校との連携を組織的、計画的に取り組み、中学生並びに中学校の先生方に本校に対する理解を深めていただいている。 ＜指標＞組織的、計画的な取組みとなっており、募集定員の充足につながった。	・学校からの情報を発信している。 ※機関誌の発行(倉吉北高NEWS) ※学校説明会(毎月第3土曜日)の実施 ※オープンスクール(夏・秋)の開催 ※旬彩展を未来中心で開催(文化展示会) ※地域活動への積極的参加	・生徒募集対策に向けた組織つくる。 ・学校からの地域・家庭への情報発信を継続する ※地域活動への積極的参加する ・出身中学校区へのボランティアに参加する ・教職員がPTA、地域活動へ参加する ・進路決定後の3年生が中学校訪問をする。 ・東部、西部の中学校へ組織的、計画的にアプローチする。			
	部活動の勧誘	部活動への勧誘を組織的、計画的に取り組み、優秀な中学生を獲得するとともに全体の志願者数も増加している。 ＜指標＞組織的、計画的な取組みとなっており、募集定員の充足につながった。	・強化指定クラブを中心に生徒勧誘した結果、県大会上位入賞、中国大会、全国大会へ県代表として出場、昨年は陸上競技ハンマー投げで団体に8位入賞者を輩出した。	・受験者数を増やすのが、強化クラブの顧問をはじめとした、関係者が中心であった。今年は、学校全体で計画的に勤けるような組織作りをしていきたい。 ・部活動顧問と校区担当者による情報交換会を実施する。 ・科・コース主任と校区担当者による情報交換会を実施する。			
	予備校・進学塾との連携	予備校・進学塾連絡協議会を設置し、連携して取り組む。 ＜指標＞予備校・進学塾連絡協議会を開催し、募集定員の充足につながった。	・以前は連絡会を実施していたが、ここ数年は実施していない。	・生徒募集のひとつとして塾、予備校との連携は必要。以前開催していた塾、予備校との連絡会を復活し募集定員の充足に繋る。			
	広報活動	既成概念を超えた広報活動を工夫し、成果を上げている。 ＜指標＞広報活動が募集定員の充足につながった。	・PTAの会報誌の発行、オープンスクールでの本校保護者役員(青友会)のオープンスクール参加保護者との話す会など企画され保護者同士の情報交換を行っている。	・「チーム倉北」の名刺を広報に活用する。 ・学校パンフレットを常に持ち歩き必要があれば本校の説明ができるように準備しておく。 ・HPの充実、更新の頻度を上げる。仕事の担当を明確にする。広報部、学年、育友会役員、部活動の保護者など協力体制がとれる組織を作っていく。			